

Cartonnage Style Book vol.1

CASKET



TASSEL & CARTONNAGE

Cartonnage Style Book vol.1

CASKET



TASSEL & CARTONNAGE PASSAMANO.JP PUBLISHING

TEXT, ILLUSTRATION, PHOTOGRAPHY, DESIGN : TASSEL N COPYRIGHT © 2009-2015 PASSAMANO.JP ALL RIGHTS RESERVED.

INTRODUCTION

キャスケット・スタイル

カルトナージュを作ってきた中で、カルトナージュにはシェイプを典型にする形態とは別に、個性的なスタイルを表現する様式美があると考えています。タッセル&カルトナージュでは、既にヴァニティ・スタイルやポット・スタイルを発表していますが、ある意味でカルトナージュには、箱を美しく潤色するフォーマット（構成や形式）を元にして、備わった実用性を拡張していく捉え方があると考えています。

スタイルとは、独自の表現を持った形や様式という意味の「格好」を指す言葉です。オクタゴン・シェイプを元にしたオルゴール型や、長楕円のシェイプを元にしたランチボックス型と称していくように、意匠や形状をわかりやすく示し、しかも一層引き立つよう飾って仕立てる作り方をスタイルといいます。

本テキストはカルトナージュの起源から、古代エジプト時代にミイラとして保存する棺を作る手法を踏まえて、カルトナージュの実質的な意味をとらえたスタイルを創作したものです。最初にしてロマンチックな発意によるものですが、キャスケット・スタイルとは何か、カルトナージュの様式を示すスタイルブックとして、少しでも今後のカルトナージュづくりの参考になれば嬉しく思います。

The logo for Tassel & Cartonnage, featuring the word 'Tassel' in a cursive script followed by a stylized 'N'.

TASSEL & CARTONNAGE

INDEX

INTRODUCTION	4
CASKET	8
～宝飾品を入れるキャビネット式の箱～	
1. キャスキットとは何か	8
2. ジュエリーボックスとトレジャー・チェスト	9
3. “自分らしさ”を目指すスタイルに	9
プレシャススタイル	
4. スタイル・ポリシー	10
5. キャスキットのディテール	11
CASKET STYLE	14
キャスキット・スタイルの実例「コモード型チェスト・ドレッサー」	
1. コモード型とは何か	14
2. キャスキットの設計とカルトンモデル	15
3. キルティングトリムの手法	16
4. ポリエチレンシートの用法	17
5. キルティングプレスの方法	18
6. シームレスなトリムパターンの成型	19
7. キャビネットの構造	20
8. キャビネットの組み付け	21
9. チェスト・ドレッサー	22
10. キャビネット・レッグの作り方	23
11. パスマントリー仕立て	24
12. ボックスカバーとチェスト	25
13. キャスキットを装飾するタッセル	26
14. キャスキットに合わせたディテール	27
15. カルトナージュへの飾り方	28
POSTSCRIPT	31







Style of Cartonnage

CASKET

～宝飾品を入れるキャビネット式の箱～

1 ■ キヤスキットとは何か

キヤスキット:casketとは「宝飾品を入れるキャビネット式の箱」です。カスケッ
トまたはカスケットとも発音されますが、英国用法の「宝飾品などを入れる小
箱、手箱」を元に定義したものです。米国用法においては“棺”や“棺桶”を
意味しますが、英国用法は標準的に“棺”や“棺桶”を指す“コフィン：
coffin”を用いており、コフインはギリシャ語を語源とした“かご”を意味するも
のです。キヤスキットの深い意味を表していると考えています。日本的には“玉
手箱”や“宝箱”と呼べる奥行きのある名称ではないかと思えます。

TASSEL & CARTONNAGE

2 ■ ジュエリー・ボックスとトレジャー・チェスト

キャスキットは単なる収納箱ではなく、蓋や棚の付いた箱として、宝飾品のうち貴重なものや、特別な値打ちのあるものを整理する用い方をします。一般的なジュエリー・ボックスでは、多様な使い方が用意されるぶん、高級なものから“かわいい”というものまで幅広く利用するのですが、キャスキットは、貴重で高価なものに限定することを用途とした、トレジャー・チェスト (treasure chest) です。

3 ■ “自分らしさ” を目指すスタイルに

キャスキットは、単なる優美なスタイルだけのカルトナーージュではありません。一般的なカルトナーージュも、その手法や風合いから優雅な特色を自然に持ったものとして、人気を集めているわけですから、キャスキットというスタイルを製作手法にまで高めて言うには、その製作手法が影響を受けるストーリーやディテールがあってこそ、洗練されたプレシャス (precious) なスタイルが特徴です。それだけに、キャスキットを作る“自分らしさ”を、表現していく楽しみ方が重要なのです。

プレシャス・スタイル

- ▲ 洗練された優雅さを表現するスタイル
- ▲ 品のある純粹さを目指したスタイル
- ▲ ラグジュアリーな気分・様相を目的にしたスタイル
- ▲ 自分好みの形・材料をコーディネートしたスタイル

4 ■ スタイル・ポリシー

プレシャス・スタイルの要素は、キャスケットづくりのポリシーになるものです。一つ目の「洗練された優雅さ」とは、キャスケットが優れて美しいという美点を作ることにほかなりません。二つ目の「品のある純粹さ」とは、キャスケットのディテール作りにおける精妙さです。三つ目の「ラグジュアリーさ」とは、キャスケットの快適さ心地よさを作ることです。四つ目の「コーディネート」とは、これらの要素を調和させることです。

キャスケット・スタイルは、そのフォルムに豊かさとしての眺めをもたらします。細部にわたるディテールを通して感じ取れることは、カルトナーージュだけの存在感ではなく、特別な空間使いまでも、キャスケットでつくりだすことを意識するでしょう。

キャスケットは、古典スタイルを顧みるものではなく、現代のカルトナーージュを考える始点にして、新しい創作に結びつけるスタイルです。スタイリッシュで洗練された美しさは、機能美やデザイン性として多種多様にあるものですが、上辺だけの魅力を仕立てるのではなく、キャスケットの意味をディテールに求めなければなりません。



▲脚（レッグ）がつくだけで箱でない印象になる

TASSEL & CARTONNAGE

5 ■ キヤスキットのディテール

キヤスキットは、シェイプに依存しない自由なスタイリングを与えられるカルトナーージュになるでしょう。標準化されたカルトナーージュにみる、何をつくるかという視点ではなく、何ができるかという視点で考えるスタイルだからです。それだけに、キヤスキットは標準化された製作工程ではない、キヤスキット独自のメソッドを持っていると考えています。

■ 装飾と意匠のメソッド

カルトナーージュがトワル（平布）を標準的に用いるのに比べ、豪華に用いられていた絹をはじめ、織物や刺繍布などの装飾性の強いファブリックを用います。キヤスキットが“飾られた宝飾箱”に相応しい美点をもつということです。ファブリックのほかに、タッセル、ブレード、フリンジ、モールといった設えとともに、何か美しいものに惹かれて、眺めたくなるような共感を作り出すことを目的にするのです。

■ フォルムのメソッド

キヤスキットは、箱の形や形状として捉えるよりも様式とするほうが明快です。キヤスキットという存在について、フォルムの感じ方まで仕立てる意識を持つということです。キヤスキットのフォルムは、カルトナーージュにすると、箱というよりはキャビネット（飾り棚）に近いフォルムを持ちます。実用性からも、収納や整理に向けたドロワーやチェスト（収納箱）のディテールや、筐体を支えるレッグ（脚）等を組み合わせたスタイリングが特徴です。



▲織布を用いた意匠トリムの例



▲装飾に用いたタッセル例



▲キャビネット型の例

■空間演出のメソッド

キャスキットの空間演出は、フォルムやディテールの特徴から、カルトナーージュとしての外観と内装を取り巻く造形空間まで考える必要があります。キャビネットであれば、どこに置きどのように飾るのか、ドロワーやチェストなら収納スペースをどう作るかということです。また、標準的にベタ置きの多いカルトナーージュですが、レッグによって、接地面と底の間に空間が生まれてきます。カルトナーージュの姿勢ということを、形において捉える重要なディテールになるものです。



▲ドロワーを実用したときの広がり



▲レッグによる姿勢



▲外観としての眺めや印象

TASSEL & CARTONNAGE



CASKET STYLE

キャスキット・スタイルの実例 「コモード型チェスト・ドレッサー」

1 ■ コモード型とは何か

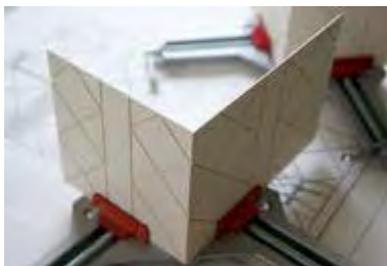
実例とするキャスキットの仕様は、キャビネット式チェスト・ドレッサーです。スクエア・ボックスのカバーに、ドロワー・チェストを組み込んだキャビネット式の化粧台です。脚付きの小さな整理だんすのような形態ですから、古語で調度品を指すコモード（ラテン語で「便利なもの」：commode）と呼びます。

キャスキットの意匠には、カルトナーージュでは全く新しいトリム技法として、クロスをキルトのように成型した、キルティングトリムというオリジナルの手法を用いています。布箱としてのカルトナーージュの優しさは「風合い」であって、実際の触感は大丈夫なものです。カルトナーージュの布感から触ってみたいくなるカルトナーージュを目指した技法です。また、キャスキットの象徴的な装飾品とした、カルトナーージュのフィニアルで設えたハーフ・タフテッドタッセルも、今まで見たことのないカルトナーージュのアイテムです。

実例作品は、2011年8月から10月にかけて、キャスキットのプロジェクトとして記録したフィールド・ノートから、キャスキット製作のメイキングをまとめたものです。

▲隅接ぎによるキルトパターンの合わせ目

2 ■ キャスキットの設計とカルトンモデル



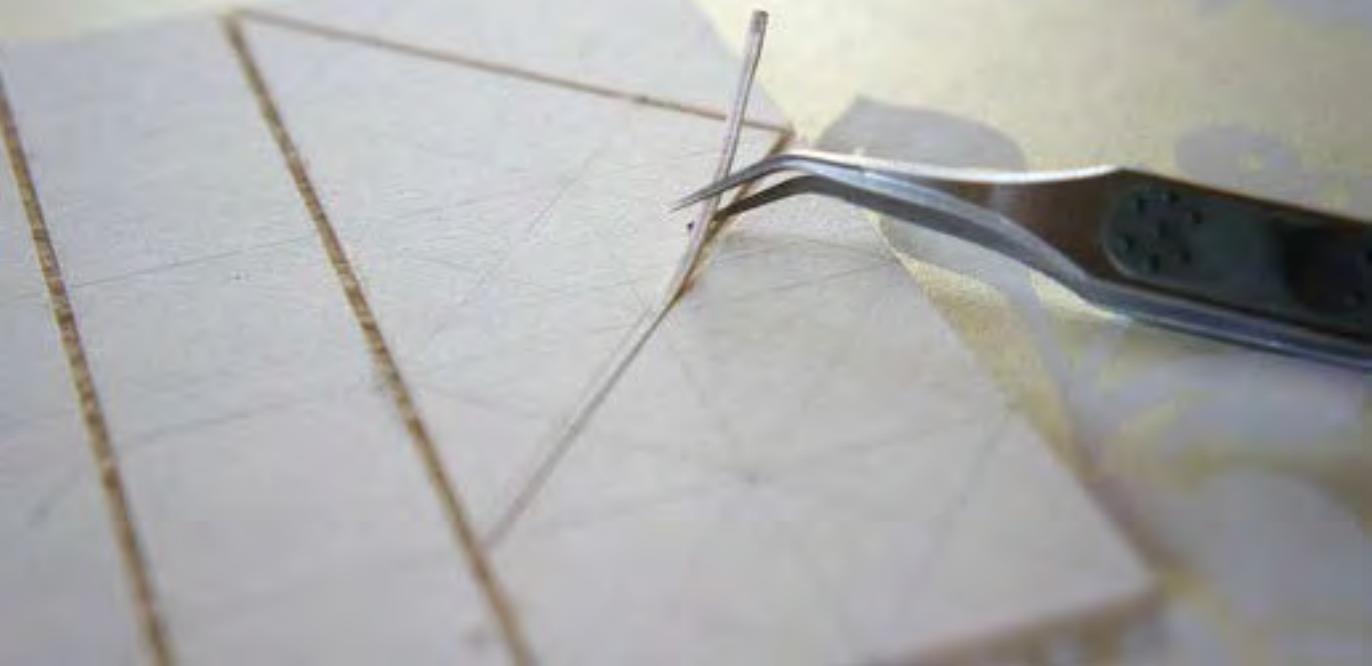
トリムのための接合方法

外観フォルムは、スクエアボックスですが、外装意匠にキルト風トリムを配列させるために、シームレスなトリムパターンを描いておかなければなりません。そのため、通常の平受け接合ではなく、小口をビゾーにカットして突き合わせる「隅接ぎ」方法を用いてカルトンモデルを試作しています。



キャビネットの試作

キャビネットの構造はもちろんのこと、最も重要なことは、カルトンの厚みを詳細に使い分けた見なし設計を行うことです。グリを使ったモデルですが、グリを厚みを、クロスで巻いた厚みと見なし設計寸法で組み立てています。実際の芯材には、厚みの豊富なホワイトカルトンを採用しています。



▲カルトンの積層紙を剥がして溝をつくる

3 ■ キルティングトリムの手法



カルトンのハーフカット

カルトンの表面をキルト風にトリムするためには、キルトのような立体パターンでクロスを接着します。クロスにキルト型をつけて固定するには、あらかじめカルトンにハーフカットした溝を切り、クロスを接着していくための仕込みを作っておきます。



キルト芯材

キルト風のトリムは、キルトのパターンのほかに、キルティングによって膨らんだ状態をつくることが重要です。溝切りしたキルトパターンのエリアごとに、キルト芯を重ねて膨らむよう芯を作っておきます。均一な高さで大きさを、張りをもたせた膨らみが大切です。



▲ポリエチレンシートでキルト状の膨らみをつくる

4 ■ ポリエチレンシートの用法



ポリエチレンシート

通称「シロポリ」と呼ばれる緩衝材。カルトナー
ジュに便利な補完材料です。クロスでキルト芯
の重なりをカバーするだけでは、張りのある平
滑なクッションを保った状態にはなりません。
ポリエチレンシートを、キルト芯の上から仕上
げ材として貼ります。

芯材のパッキング

クッションの仕上げは、ポリエチレンシートを細
かくキルトパターンに貼り込んでいきます。キルト
芯材に、ある程度テンションをかけて押さえ
込んでおき、ポリエチレンシートで膨らみを密
封してしまうことが重要です。化粧貼りは、ク
ロスを引っ張らず接着するだけです。



▲クロスをキルトパターンに圧縮するための組型

5 ■ キルティングプレスの方法



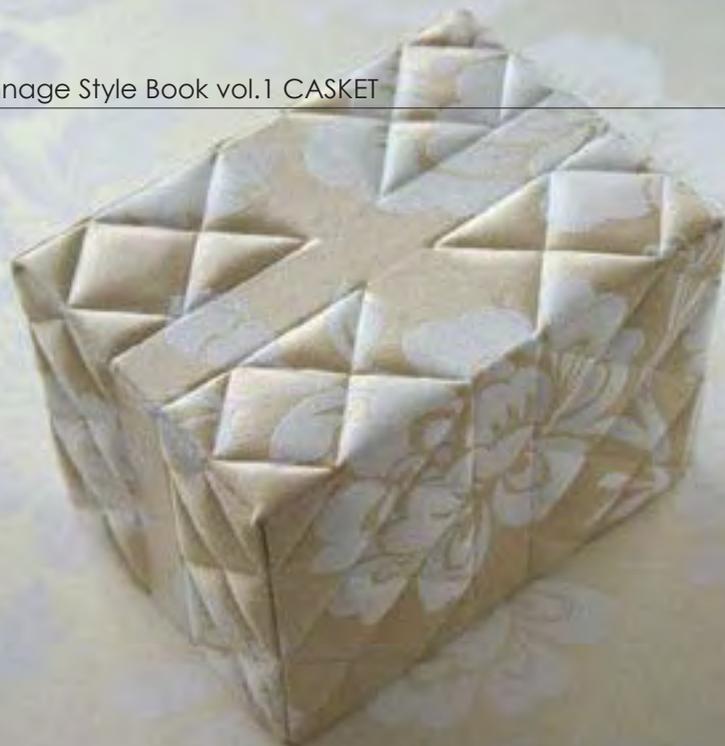
ヒンジ接合による組み立て

トリムしたパターンを美しく繋ぐには、化粧下地をついたカルトンを、裏面からヒンジで接合します。キルティングトリムの巻き代は、外観に作る事ができません。化粧裁ちを表層にださないために、組み立て方とトリム方法との関係において有効です。



キルティングの型押し

キルティングのトリムを均一で美しく仕立てるためには、均等に圧縮するための組型をカルトンで作ります。全体をクランプで固定することで、クロスの遊びを均等に逃がし、溝を掘った部分に、クロスを実際に接着させて筋付けを行うのです。



▲キルティングトリムの完成段階

6 ■ シームレスなトリムパターンの成型



キルティングトリムの展開

プレスして仕上げたトリムは、均一なテンションを受けてキルト風のモールドを現します。キルティングトリムは、表面の意匠だけを確実に作るためのもので、クロスシワや浮き、張り不足、パターンの変形や間隔のズレがないよう確実に定着させます。

ヒンジによる組み上げ

キルティングトリムを展開した状態から、箱に組み上げていきます。クロス糊代は、全て内側に折り込みます。表層では各面のキルトパターンが繋がります。折り込んだ巻き代を内側で接着し、各側面小口の巻き代は、箱に組み上げてから巻き込んで処理します。



▲キャビネット構造を検証するためのカルトンモデル

7 ■ キャビネットの構造



棚板を支えるスリット

キャビネットの芯材にするカルトンは、全て厚みの組み合わせが豊富なカルトンを使用します。特に、厚手のクロスをトリムする場合には軽量化した用い方ができるからです。チェストの構造を持ったキャビネットには、棚板を支えるためのスリットをカルトンに仕込む設計をしています。



キャビネットの部材

キャビネットの上部には、乗せ蓋式のボックスを配した天蓋を作り、その下段にドロワーを積む構造です。ドロワーはリバーシブルに用いる、両面引きの構造です。左右側面で支える面板の形状や、棚板の合わせ仕立て、化粧用スリット等、多くの組み立てパーツによって組み上がります。



▲化粧貼りしたキャビネットの筐体

8 ■ キャビネットの組み付け



棚板構造と化粧

カルトンの棚板用スリットは、上からクロスで化粧すると、開いた部分のクロスが浮いた状態になります。化粧貼りしてから切り込みを入れ、クロスをスリットに折り込んで、棚板をはめ込みます。棚板の接合部分が奥に入り、棚落ちを防ぎます。



筐体の接合方法

織布を使った接合は、生地の厚みによって密着や接合が甘くなりがちです。直にキャビネットを置いて接着すれば、接着面が浮いたように見えるため、底板に浅いスリットを入れて、キャビネットの倒立板を落とし込んで固定します。見栄えが良く横ズレにも強くなります。



▲キャビネットにドロワーを入れたフォルム

9 ■ チェスト・ドレッサー



ドロワー（底）

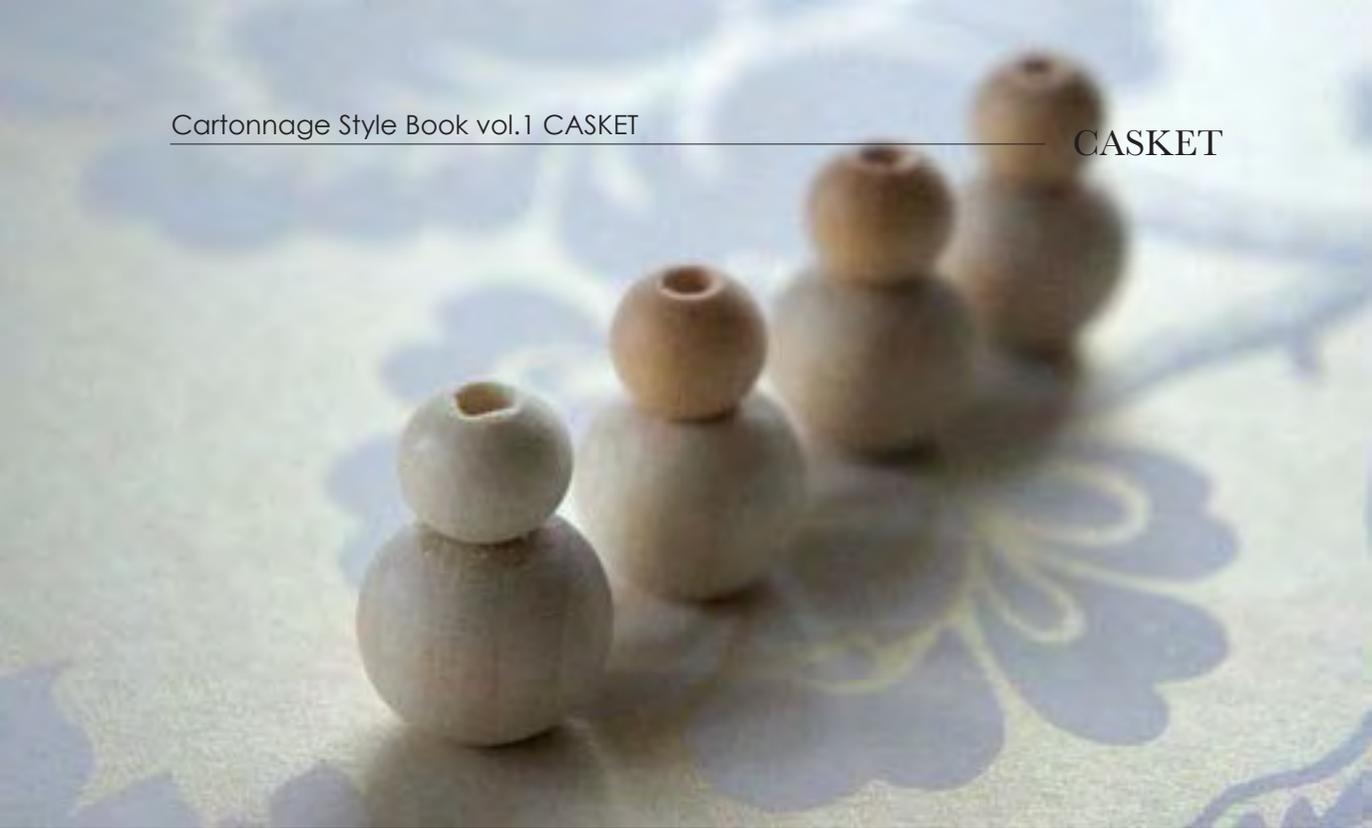
ドロワーの特徴は、リバーシブルになっていることです。引き出しが、前後に引き出せるスリーブ式であるため、引き出し形状のトリムは、化粧映えと大きく関わります。トリムはドロワー中央に集中させ、ドロワー特有の摩擦は、底を上げて接地面を少なくした構造になっています。



底とレッグの組み立て

キャビネットに必要な全てのパーツは、パーツごとの関係から設計します。全てのパーツを揃えるには、予め決まった設計を元にして、先に作っておかなければならないものや、後で調整しながら組み立てるもの、作りつつ組み立てながら行うものまであります。

TASSEL & CARTONNAGE



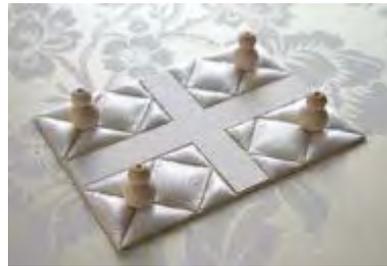
▲木球を利用したキャビネット・レッグ

10 ■ キャビネット・レッグの作り方



レッグを底板に固定する設計

上部のキャビネットとボックスカバーを支えるために、底部にレッグ（脚）をつける設計をしています。トリム前の底板（カルトン）には、レッグを付ける位置を定める他、全体を支えるための軸の土台を作ります。底部のキルティングを考慮した配置設計も重要です。



レッグの固定方法

底板にも、キルティングトリムを施しますので、キルトパターンの中に、レッグの位置および接着固定する配置を決めておきます。レッグは大小の木球を組み合わせモールドを作り、底板に対して垂直に接合するよう、軸を中通しています。



▲連結した木球をコードで巻いた意匠

11 ■ パスマントリー仕立て



巻き珠の応用

竹軸で木球を連結させたシンプルなレッグです。竹軸を木球に通すことで連結部分を補強し、本体の底板に固定します。木球の意匠は、布地に合わせてカラーコーディネートしたコードを、スネイリングで設えた巻き珠です。手作りでも立派なパーツになります。



キャビネット底の仕立て

キャビネットの底板は、ボックスカバーを受ける底部を兼ねています。一貫した外観意匠と同じ仕立てですが、レッグを接合する土台を作り、レッグの軸を中通しする穴を開けています。また、レッグを巻いたコードの始末や、木球を固定するための接着領域を定めておきます。



▲ボックスカバーを被せた状態のチェスト

12 ■ ボックスカバーとチェスト



キャビネットの倒立

キャビネット底にレッグパーツを組み付けます。レッグを固定する軸幅を残して、残りの軸を中を通して各パーツを組み立てる順序です。底板カルトン2枚で、レッグの軸が垂直に立つよう固定し、レッグの長さを調整しながら、垂直に倒立させます。



キャビネットの完成

キャビネットは、チェスト式のドロワーとレッグの付いたボトムで構成しています。ボックスカバーを被せて、固定具合や収納状態を見ながら、全体のバランスを確認します。キャスキットの重量も出てきますから、レッグの構造強度などを確認しておきます。



▲カルトンから削り出したフォーム

13 ■ キャスキットを装飾するタッセル



カルトナーージュ製のフィニアル

キャスキットには、カルトナーージュで作るタッセルを設えます。タッセルは、フィニアル型のタフテッドタッセルですが、フィニアルはウッドフォームを使わず、オリジナルで成形したカルトンフォームを、共生布地で化粧した特別仕様です。



ジグで作るタイニング

タフテッドタッセルは、複数の房を束ねたスカートになるため、タッセルフリンジを飾るためのタイニングコードを結んでおきます。決められたタフを配列するためのコードは、間隔や長さを一定に決められるジグを用いています。



▲カルトナーージュ・フィニアル

14 ■ キャスキットに合わせたディテール



タッセル・フリンジ

連続してタッセルを束ねるために、ネットイングフォークを使います。ラフ・コードの配列や大きさ、タッセルの長さ、糸量、糸色等を決めた上で決定します。また、どのような順番で配列させるかによって、スカートに広がる形が変わってきます。



タフの構成

通常のタフテッドは、中のタッセルが下で、外に巻くほど上に配列していくのですが、ハーフで吊り下げて固定させるため、中を上を外を下に配置させたスカート構成になっています。タッセルの設えは、タフを固定して吊るすタイネットワークダウンです。



▲キャケット・タッセル

15 ■ カルトナーージュへの飾り方



タッセルの見え方

フィニアルのウエストにラフ・コードを巻き、タッセルフリンジが下がります。二列に配置したタッセルフリンジは、重則的なコードで設えることで、タッセル同士が重ならず、左右に広がったスカートシルエットになります。



ブレイドで繋がる装飾方法

タッセルは円筒体ではないため、吊るさないタッセルとして、キャスキットの筐体に直付けしています。バンド状に設えたブレイドと、フィニアルを連結させる見せ方は、吊りの美しさを捉えた装飾方法です。

TASSEL & CARTONNAGE



TASSEL & CARTONNAGE



POSTSCRIPT

～キャスキット誕生の秘話～

キャスキット (casket) の誕生は、2009年当時の教え子であった R.U. さんが、カルトナーージュにビーズ刺繍を施した、ビーズ・クラフトのためのキャビネットづくりを発案する際に、“そのスタイルを言葉で表現すれば何か?” という私の問いに対する答えでした。

彼女は当時、そのスタイルを言葉に変換するため、カルトナーージュの形状や意匠性から、ルイ 16 世様式を参考にしながら、特徴や要件を調べていました。言葉の説明や意味を受けて、なるほど! そう表現できるかもしれないと、大変感心したことを思い出します。その時、おそらくカルトナーージュの分野では、初めて提唱する呼び方であることを確認した上で、今後の創作活動に有益で、付加価値を与える考え方ではないかと思い、タッセル&カルトナーージュ (HP) で紹介しました。キャスキットの生みの親は、R.U. さんであるということを表明しておきます。

それから二年後、私なりに何とかスタイルとして定義できないかと、キャスキットといえる要件を考察し、創作カルトナーージュとして提起したのが「キャスキット・リリ」でした。キャスキットの“リリ”とは、R.U. さんの愛称として用いていた呼び名を頂戴させていただきました。本テキストも、そういった所以で書き表すことができました。ここにキャスキット (CASKET) という概念を発案した R.U. さんへ、あらためて深い感謝の気持ちと謝意を表したいと思います。

2011年10月

Tassel N

Cartonnage Style Book vol.1

CASKET STYLE

非売品

2015年10月06日 E-BOOK 第2版
2011年10月16日 E-BOOK 第1版

著者 Tassel N

発表 Tassel&Cartonnage <https://www.passamano.jp>

発行 PASSAMANO.JP

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、著者、発行者の許諾を得ずに、無断で複写、複製することは禁じられています。

Copyright © 2009-2015 Passamano All rights reserved.

Published by PASSAMANO.JP

Original Japanese edited by Tassel N

First edition: October 16, 2011



PRODUCED BY
TASSEL & CARTONNAGE
PASSAMANO.JP PUBLISHING